令和７年度岐阜県合同輸血療法委員会　議事要旨

１　日　時　令和８年２月２０日（金）　１３：３０～１５：００
２　場　所　岐阜県赤十字血液センター　３階会議室
３　出席者

所　属	役職	氏名	備考
一般社団法人岐阜県医師会	理　事	西野　好則	【副委員長】
一般社団法人岐阜県薬剤師会	副会長	鈴木　昭夫	
一般社団法人岐阜県臨床検査技師会	輸血部門長	森本　剛史	
国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学医学部附属病院	輸血・細胞 治療部　副部長	中村　信彦	【代理出席】
大垣市民病院	血液内科部長	小杉　浩史	【委員長】 【専門部会長】
独立行政法人岐阜県立多治見病院	副院長兼 血液内科部長	小澤　幸泰	
独立行政法人岐阜県総合医療センター	輸血部長	谷口　光宏	
社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院	病院長代理	鶴見　寿	
岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院	血液内科部長	後藤　英子	
岐阜県赤十字血液センター	所　長	髙橋　健	

【委員会事務局】

所　属	役職及び氏名	
岐阜県健康福祉部薬務水道課	課長	山内　康裕
	管理調整監	服部　真紀
	技術課長補佐兼係長	青木　明日香
	主任技師	加藤　大和

【専門部会事務局】

所　属	役職及び氏名	
岐阜県赤十字血液センター	学術情報・供給課長	大田　佳子
	学術係長	和田　美奈
	学術担当	志知　俊

４　議　題

（１）　令和７年度事業報告について

（２）　令和８年度事業計画（案）について

５　報　告

（１）　令和７年度献血推進等事業の概要について

（２）　令和７年度献血の実績について

（３）　令和７年血液製剤の供給の実績について

６　議事要旨

冒頭、薬務水道課山内課長からあいさつを行った。

岐阜県合同輸血療法委員会委員長の大垣市民病院　小杉血液内科部長からあいさつを行った。

岐阜県合同輸血療法委員会設置要綱第４条第３項及び第４項の規定に基づき、議長は西野副委員長が代理となり議事を進行した。

・議題（１）令和７年度事業報告について

岐阜県合同輸血療法委員会部会　小杉専門部会長から資料に基づき説明を行った。

（説明概要）

令和７年度は、厚生労働省の血液製剤使用適正化方策調査研究事業に採択された課題「中小規模病院の適正化推進事例」を把握するため、例年、ＷＧ１で実施している岐阜県内の血液製剤使用量上位３０医療機関に対する血液製剤使用状況調査解析に加え、ＷＧ４の取組みとして病床数１００床以上の２１医療機関に対し同一の調査項目で調査を実施した。さらに、日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価制度（Ｉ＆Ａ）セルフチェックについて、５１医療機関を対象にＩＲＦ２０２５と岐阜県合同輸血療法委員会独自の解説集を資料として配布し、調査を実施した。

今回の調査により、３００床未満の施設群では３００－４９９床の施設群と比較して、輸血療法委員会の年間開催回数６回以上、輸血認定医の在籍あり、輸血管理料算定あり、輸血関連研修会実施あり、血液型自動測定器使用あり、血液型オーダリングシステム実施体制あり、緊急O型ＲＢＣ輸血実施体制あり、ＲＢＣ製剤およびＦＦＰ製剤の在庫保有あり、血液内科診療あり、前年度以前のＩ＆Ａセルフチェック実施歴あり、輸血用血液製剤使用診療科数が５診療科以上の項目で輸血管理体制の整備率が有意に低いことがわかった。

過去５年間で、大幅に廃棄率抑制目標の改善が進んでおり、かつての中小規模病院の廃棄率抑制に上記項目の整備が寄与したものと考えられる。

また、今回の調査で、新たに血小板製剤の廃棄抑制の取り組みも課題として浮かび上がってきた。血小板製剤は、主に血液内科、心臓血管外科などで多く使用され、大規模病院に使用量の大半が認められるが、中小規模病院における廃棄単位、廃棄率の抑制は重要なポイントである。原則的に予約製剤であり、比較的限られた診療科で使用される特性があるが、小規模病院の使用・廃棄状況のばらつき、中規模病院での平均廃棄率が比較的高めであることは留意が必

要である。なお、大規模病院では廃棄率自体は良好な結果となっている。

体制整備のみならず、赤血球製剤に比較し有効期限が極端に短いなどの製剤特性を考慮し、発注トリガーの厳格化、未使用時の院内転用の確保などの対策が必要と考えられた。

この他、WG活動は継続テーマであるものの、WG２における臨床輸血看護師を配置できていない医療機関に対する啓発として、認定看護師による研修会をはじめて実施して反響を得た。薬剤師研修会も全二次医療圏からの参加が常態化しており、輸血業務におけるチーム医療の重要性を各医療機関で認識が進んでいる。

WG３における e-learning 教育資材作成も３年を経て、７／１５のテーマについて完成をみており、残るテーマは数年以内にすべて完成を見ることと思われる。

WG６では、パンデミックを挟んで、受験が制約されたことから、資格保有者の退職者が増加し、新規保有者が生み出せない状況が数年間続き、次世代の認定技師育成が強化方針となっていたが、徐々に育成が進み始め、再び全国平均を上回る技師の有資格者の確保が視野に入ってきた。

多職種の実務者全体のボリューム、質が向上することで、規模のやや小さな医療機関への波及効果も期待できるようになり、これら専門部会活動が好循環を再び生み出しつつある。

今後の専門部会活動への提言として、これまで得てきた平成 24 年度以来の経時的データの積み重ねに加え、今年度の大規模な調査を踏まえ、

① 一部の廃棄率目標未達成が持続している一部の中小規模病院への支援を、引き続き強化・拡充する必要がある。
② 専門性資格保有者の活用と拡充が重要である。(強化)
③ 開発・教育・研修・監査体制の構築により自律的に適正化推進が可能となるまで相談支援を強化する。検査技師相談支援体制の活用を強化する。
④ モデル的施設としての I&A 認証施設を中小規模病院についても確保する。
⑤ 各種研修会、e-learning 研修のツールの拡充をはかる。(強化)

以上の課題を次年度以降のテーマとする。

＜西野副委員長＞

ただ今の説明について、ご意見ご質問はあるか。

WG２の病院薬剤師研修について、多くの方に参加いただけている。鈴木先生、今までの振り返りや感想はいかが。

＜鈴木委員＞

Ｗｅｂ参加も可能としたことで全医療圏から参加があったことが大きい。２０２３年度から継続的に同じような内容で研修を実施しているが、昨年度から研修会への参加による日本薬剤師研修センター研修制度や日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師制度の単位付与を可能としたことで、参加者が参加しやすくなったと考える。

この他、参加者の分布をみると中濃圏が多いため、担当された澤田先生が積極的に案内いただけたものと考えている。

＜西野副委員長＞
　ＷＧ６の認定臨床検査技師の状況について、森本先生ご意見いかがか。

＜森本委員＞
　認定検査技師については、３０医療機関での受験者数が、ここ２年で増えてきており、このまま行けば２～３年後には、病院分類別の全国平均を全て上回る予定となっている。地道な努力の成果が表れたものと考えている。

＜西野副委員長＞
　病院内での取り組みなどについて、後藤先生ご意見いかがか。

＜後藤委員＞
　当院では、認定看護師を中心としたスタッフの教育に力を入れている。
　この他、初めて看取り施設での輸血を連携して実施する取り組みがあった。

＜西野副委員長＞
　その他にご意見ご質問はあるか。
　専門部会報告を委員会報告書としてまとめ、厚生労働省の血液製剤使用適正化方策調査研究事業で報告させていただくこととして、よろしいか。

　（委員から異議なし）

・議題（２）令和８年度事業計画（案）について
委員会事務局　青木　技術課長補佐兼係長から資料に基づき説明を行った。

（説明概要）
　令和８年度は、令和７年度同様、岐阜県合同輸血療法委員会の活動方針を基本に事業を推進していく。具体的な事業計画及び専門部会活動内容については、令和７年度を踏襲しつつ、新たに、平成２４年度以降蓄積された岐阜県調査結果を用いた網羅的解析を実施する。

＜西野副委員長＞
　ただ今の説明について、ご意見ご質問はあるか。

＜小杉委員長＞
　次年度は５月末に委員の改選となるが、必要であれば、改選前の４月から委員会活動を開始するため、御承知おきいただきたい。

＜西野副委員長＞
　その他にご意見ご質問はあるか。

（意見なし）

＜西野副委員長＞
　それでは、令和８年度事業計画は、案のとおり活動を進めていく。

・報告（１）令和７年度献血推進等事業の概要について
・報告（２）令和７年度献血の実績について
　委員会事務局　青木　技術課長補佐兼係長から資料に基づき説明を行った。

（説明概要）
　令和７年度岐阜県献血推進計画に基づき、岐阜県、市町村及び岐阜県赤十字血液センターが連携して献血啓発に取り組み、若年層及び献血可能年齢前の世代に対しては、「未来へつなぐ献血プロジェクトぎふ」として啓発事業を展開した。
　令和７年度の献血の現況は、１２月までの実績で献血者数及び献血量ともに目標値を若干下回った。年代別人口に対する献血率では、１０代と６０代の献血者数が増加している。
　これまでの取組結果、実績を踏まえ、次年度の岐阜県献血推進計画を策定し、献血啓発に取り組んでいく。

＜西野副委員長＞
　ただ今の説明について、ご意見ご質問はあるか。

（意見なし）

・報告（３）令和７年血液製剤の供給の実績について
　専門部会事務局　大田　課長から資料に基づき説明を行った。

（説明概要）
　県内医療機関への赤血球製剤及び血漿製剤の供給は前年と比べ横ばいだが、血小板製剤は減少傾向である。
　岐阜県内では、若年層の献血を推進しているため、２００mL 献血の割合が、全国と比べて高くなっている。
　人口千人あたりに占める赤血球製剤供給単位数の割合は、全国に比べ低いため、適正使用が為されていると考えている。
　県内輸血用血液製剤供給実績上位３０医療機関の一部では、移動採血車による献血を実施している。引き続き、各医療機関での献血の実施に協力いただきたい。

＜西野副委員長＞
　その他全体を通して、小澤先生ご意見いかが。

＜小澤委員＞
　ＷＧ８の標準ツールについては、必要時に対応していく。
　認定検査技師や認定看護師の話があったが、当院でも若い世代の看護師が、何名か試験を受けると聞いているので、今後増えていくと考えている。

＜西野副委員長＞
　鶴見先生ご意見はいかがか。

＜鶴見委員＞
　輸血を安全に行うことが最終目標だと考えるが、岐阜県が全国に比べ、人口に占める血液製剤の供給量が少ないという点は、血液製剤の適正使用が適切に行われていることであり、良いと考える。

＜西野副委員長＞
　谷口先生ご意見はいかがか。

＜谷口委員＞
　ＷＧ３で当院を視察いただいたが、参加された方々が活発な討論をしており驚いた。
　このような病院間でのつながりを今後も進めていくべきと考える。

＜中村委長（代理）＞
　２年前から現地での病院視察研修を再開しているが、参加者が増えてきていることもあり、ニーズがあると感じているため、実施回数を増やしていくことを考えている。
　e-learning 資材も順次作成しながら、アップデートを続けていきたい。

＜西野副委員長＞
　その他ご意見はあるか。
　意見ないようであれば、本日の議事を終了いたします。

最後に、岐阜県赤十字血液センター髙橋所長より閉会のあいさつをしていただき、委員会を終了した。